



キャンパス / 東京都世田谷区 学生数2,563人
 学部 / 危機管理、スポーツ科学
 THE世界大学ランキング日本版2022 / 141-150位(日本大学として)

CASE STUDY

データ分析は外部・AIに任せ 大学は教育改善に注力

日本大学三軒茶屋キャンパス

危機管理学部、スポーツ科学部は、開設とほぼ同時に、カリキュラムの質を保つくみを迅速に構築。AIを用いたIRによって実効性を検証中だ。



三軒茶屋キャンパス 教学サポート課 主任

我妻 敏

あづまさとし ●2010年日本大学入職、法学部勤務を経て、2016年より三軒茶屋キャンパス教学サポート課勤務。法学部では学生課業務に従事し、三軒茶屋キャンパスでは教務及び学生関係の業務を経験した後、教学IR及び広報業務を担当。

質保証が当たり前に
行われるキャンパスに

三軒茶屋キャンパスが開設された2016年は、大学本部が「アウトカム基盤型教育」へと全学の教育をソフトさせ始めた時期でした。本キャンパスに新設された危機管理学部とスポーツ科学部にも、科目ナンバリングを行うように指示がありました。そこで、内部質保証が当たり前のキャンパスをめざそうと一念発起して、学務担当の工藤聡一教授が主になってつくり上げたのが「三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ」(*1 SLI)です。

SLIは、教育の質を保つための各種ツールを統合したしくみです。*2日本大学教育憲章が定める「8つの能力」に基づき、20種の非認知能力を規定。これを101種の要素細目に分け、各4段階の

能力開発段階(*3コモンルーブリック)を記しています。2学部の全科目には、どの非認知能力を開発するのか、ひも付けされています(カリキュラムマップ)。また、4段階の能力開発段階は科目ナンバリングと連動し、例えば「ナンバリング1000番台(主に1年次)の科目は2段階まで到達すべき」といった基準(成績ターゲット)を、要素細目ごとに示しています。

大学にしかできない
改善に力を注ぐ

SLIにより、「8つの能力」の修得度合いを測る尺度が示されました。現在は、各科目にひも付けられた能力を本当に育成できているのかを、外部アセスメントを用いて客観的に証明しようとしています。

しかし、2学部で数百ある科目と、学生の各科目の成績、入試、学務、学生調査等のデータとを掛け合わせた分析は、膨大な作業量です。教学サポート課は2学部の教務もIRも担当するため、外部パートナーの力を借りることにしました。学修・教育成果の可視化は内部質保証の工程であり、目的ではありません。可視化はプロに任

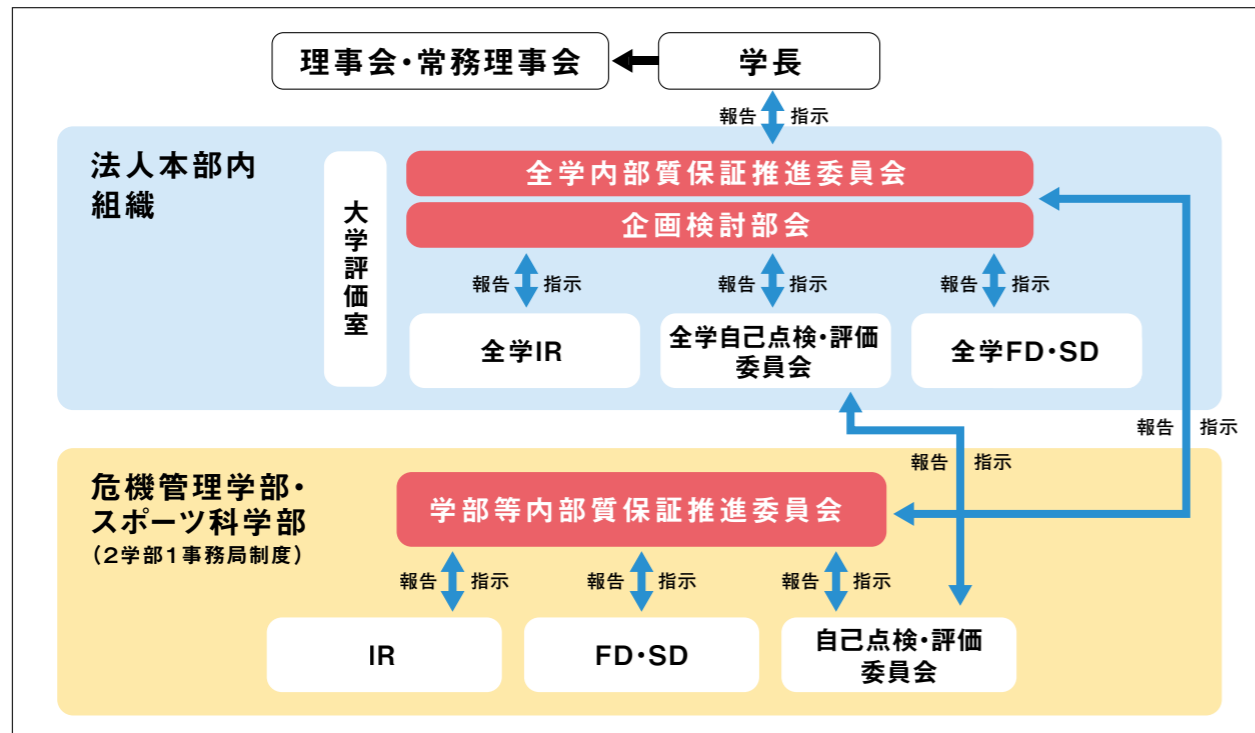
せ、私たち大学は可視化されたデータの活用、つまり教育改善に力を注ぐことにしたのです。データ分析やAIに強みを持つ*4企業、思考力等を測るアセスメントを提供する企業と共に2021年、*5ワーキンググループを発足。各データの相関を調べる中で、学生の科目別の成績とアセスメントの結果の関係に注目すると、思考力は伸びていても、それ以外の非認知能力は伸びていない科目が多いことが明らかになりました。

教員への浸透を図るため、FD・SDによって、分析結果の共有と、PDCA活動を行っていきます。SLI自体の解説、ひも付けられた能力を伸ばす授業方法などのテーマがあります。

学生に向けたSLIの周知と学修成果を可視化するしくみの提供も必要です。可視化された能力を基に履修科目を検討するといった学生自身の活用はもちろん、「この能力が高い学生が欲しい」といった企業の意向にも対応できれば理想的です。

教育憲章の制定以降、内部質保証の取り組みが全学的に進んでいます。本キャンパスが「日大のファーストペンギン」としてこの流れを先導できるよう、今後も率先して新たな試みを手がけます。

内部質保証の体制図



課題と 施策例

- ▶2学部のDPが異なる→各DPを全学の「日本大学教育憲章」で定められた8つの能力に対応させる
- ▶各教員の尺度で学生の成績が決まる→コモンルーブリックを用い、育まれる能力も検証する
- ▶SLIに従った教育を全授業で展開→FD・SDで重要性や分析結果を説いて浸透させる

注目!

膨大な学生データをAIで分析・予測し 不安を感じている学生をサポート

SLIの活用による教育の質保証の実質化と並んで取り組んでいるのが、支援を必要とする学生の発見だ。データ分析は、パートナー企業が担当。学生の各科目の成績、非認知能力を測るアセスメントの結果や、入試、学務、学生調査等のさまざまなデータを基に、AI予測によって、不安を感じている可能性のある学生を見つけ出す。

システムは2021年に実装された。現在は、AIが休退学が予測されると検出した学生に対し、教職員が面談を行っている。「通学時間が長く、対面授業に戻るのが不安」「就職活動の不調をどこに相談すればいいかわからない」といった、表面化していなかった学生の悩みを聞き出しているという。「従来は、修得単位が少ない学生、教職員が直接異変を感じた学生にしか声をかけられなかったが、AIによって他にも悩みを抱える学生を見つけ出し、対応できるようになった。学生が休学・中退に追い込まれないようにしたい」(我妻氏)。

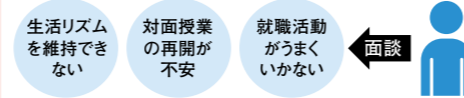
AI予測モデルを活用した学生サポート

学生の状態を推測するために各種データを収集

出欠状況	成績	外部アセスメントの結果
各種提出物の提出状況	通学時間	...

AI予測モデルから、不安を感じている可能性のある学生を抽出

個々の学生支援



*1 Sangenjaya Learning Initiative *2 2016年12月制定。大学の教育理念「自主創造」を3つの要素、8つの能力に分解している
 *3 科目横断的に用いられるルーブリック。SLIでは2学部共通のルーブリックを使用
 *4 東日本電信電話(株)(=NTT東日本)、(株)NTT DXパートナー *5 IRによる教学改善業務の基礎ができことから2022年に解散し、代わってIR委員会を立ち上げた

取材・文 / 児山雄介 撮影 / 荒川潤